

# 介護老人保健施設しおん

症例概要 ご利用者 : 80代 男性

利用期間 : 令和3年4月より訪問リハビリ(理学療法)開始

病名: 腰部脊柱管狭窄症、高血圧症、糖尿病、狭心症、ペースメーカー植え込み後、誤嚥性肺炎

経過 : 妻と2人暮らし。70歳頃より脊柱管狭窄症を発症し、歩行状態が徐々に低下し外出等も難しくなった。令和3年8月中旬に誤嚥性肺炎を発症。10月より言語療法(訪問リハビリ)を開始。

## 内 容

かつては本屋を経営していたが、60歳を過ぎてからは、シルバー人材センターに登録し仕事をしていた。元々多趣味で、野球・釣り・ゴルフなど社交的であった。70歳を過ぎて腰部脊柱管狭窄症を発症し外出が減り、腰痛もあり廃用が進んでいた。妻と2人暮らしで、子供達は市内在住だが訪ねてくることは少なく家事のほとんどを妻が1人で行っていた。令和3年4月より週3回の訪問リハビリ(理学療法)開始したが、日中は臥床傾向で活動量は低下している状態だった。偏食や食事量・水分量の低下もあり、口腔機能も低下し令和3年8月中旬に誤嚥性肺炎を発症。デイケアもお試したが、外出を好まないとの理由でご利用には至らなかった。同年10月より言語療法(訪問リハビリ)を開始。意欲的にリハビリに取り組み、少しずつ食欲も改善がみられた。その中で、「歩いて大好きなラーメンをまた食べに行きたい」との希望がきかれ、PTとSTで協力し歩いて50メートルのラーメン屋へ食べに行くことを目標にリハビリに励んだ。その目標を達成することができ、スープを飲んで1口「美味しいね」と笑顔がみられ、夫婦でとても喜んだ様子であった。「次はお寿司だな」と次の目標を口にしていた。

高齢で社会から孤立しがちな夫婦に、訪問リハビリを通して関わっていく中で外出して好きな食べ物を食べに行くという目標を見つけチームアプローチを行い、目標を達成することができた。今後も、廃用を予防するとともに生活の中で楽しみを見つけ活動を増やしていくよう関わっていきたいと考えている。